

国際経営論		講義	教授 丸山 高行	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択 必修科目 経営・経済コースの専門選 択科目	科目ナンバリング	23102202	

### 1. 授業のねらい・概要

インターネットの普及や諸外国との人材交流が加速化する現在、企業経営の国際化が急ピッチで進行している。一方で、新型コロナウイルスの世界的流行など、企業の国際化の方向性そのものに大きな変革を迫る出来事も、頻繁に起こっている。授業では、こうした現実を踏まえ、企業経営面で何らかの形で世界とつながっている企業を広く「グローバル企業」ととらえて、グローバル企業を経営する上で必要となる基礎理論を、わかりやすく体系立てて学ぶことを目標とする。

### 2. 授業の進め方

毎回の授業は、レジュメや配布資料等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。また、毎回、その日の授業で学習した内容に関する課題として3問程度練習問題を提示し、授業内容の理解を進める。教室での受講に加えて、この課題の期限内提出をもって授業への出席とカウントするとともに、期限後、Google Classroomに課題の解説動画をオンライン配信する。

### 3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 内部収益率による投資実行可否の判定
2. グローバル企業の定義と基本型	10. 財務戦略の国際化
3. グローバル企業の経営活動と国際収支	11. 国際分散投資の基礎理論
4. グローバル企業の経営組織・経営戦略	12. グローバル企業の企業価値評価
5. 国際経営における為替の影響力	13. わが国企業による海外M&A（現状分析）
6. 為替レートの決定要因と為替ヘッジ	14. わが国企業による海外M&A（意思決定プロセス）
7. 海外現地生産の現状と課題	15. 全体のまとめ（グローバル企業のリスク管理）
8. 投資意思決定のメカニズム	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

レジュメは、1回の授業につき、パワーポイントのスライド12枚が提供される（国際経営論全体で180枚）。スライド12枚は、基本的に毎回の授業テーマに沿った図表と、図表に関する解説文から構成される。さらに、レジュメには、図表の出典および関連する資料や参考文献へのリンクが貼り付けられている。受講者は、レジュメの内容を理解し、関連資料や参考文献にもアクセスして必要知識を整理するとともに、課題の解説動画を視聴することによって、毎回、1時間程度の復習を行うことが望ましい。なお、前年度のレジュメを授業スタート時にGoogle Classroomで公開するので、適宜、予習に役立ててほしい。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題については、上記の通り、Google Classroomに解説動画を配信する。期末試験は、課題（4問程度）にレポートの提出を加える形で行う。期末試験についても、終了後、解説動画を配信するので、解答が不十分だったところは直ちに復習しておくこと。

### 6. 授業における学修の到達目標

国際経営論の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、世界的に有名な大企業だけでなく、地方の特色ある中小企業の国際化にも焦点を当てて行くので、関心のある業界や企業について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

### 7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（20%）および定期試験の結果（80%）によって、評価する。

## **8. テキスト・参考文献**

毎回の授業で提示するレジュメが、テキストとなる。また、レジュメの中で、適宜参考文献を紹介する。

## **9. 受講上の留意事項**

必修科目として学んだ経営学基礎および経済学基礎の知識を前提に授業を進めるので、しっかり復習しておくこと。また、経営組織論と経営戦略論は特に国際経営論と関係が深いので、できれば本授業とあわせて受講することが望ましい。さらに、国際金融論、コーポレートファイナンス論、証券投資論の知識と組み合わせれば、本授業の理解が深まると思われる。

## **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。本授業は、金融機関における実務経験を活かして指導する。

## **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。